

正則行列 (by 山田) 教科書では, 何か所かに散らばって書かれている

(p.58, p.26, p.59, p.74, p.118, p.128, p.153, p.161)

A が n 次 正方行列であるとき, 以下のそれぞれの条件は互いに同値.

【0】 A は正則行列である

【1】 A の逆行列 A^{-1} が存在する

【2】 行列式が 0 でない: $|A| \neq 0$

【3】 A の階数が n である: $\text{rank } A = n$
つまり, 階数が行列の行数・列数に一致する: “ A は full rank”

【4】 \mathbf{x} の方程式 $A\mathbf{x} = \mathbf{b}$ について, 任意の \mathbf{b} に対して解が存在する

【5】 \mathbf{x} の方程式 $A\mathbf{x} = \mathbf{0}$ の解が $\mathbf{x} = \mathbf{0}$ のみ
 A の零空間 $N(A)$ (p.107) の次元が 0: $\dim N(A) = 0$

【6】 A の簡約行列が E_n である
 A は 行基本変形 で単位行列 E_n に変形できる. (列変形でも同様)

【7】 A はいくつかの n 次の基本行列 (p.43) の積である

【8】 (a) $BA = E$ となる n 次正方行列 B が存在する
(b) $AB = E$ となる n 次正方行列 B が存在する

【9】 A の列分割 (p.30) $A = [\mathbf{a}_1 \ \mathbf{a}_2 \ \cdots \ \mathbf{a}_n]$ による n 個のベクトルが
(a) 1 次独立 (b) \mathbb{R}^n を生成する (張る) (c) \mathbb{R}^n の基底となる
(d) A の列空間 $C(A)$ (p.132) の次元が n : $\dim C(A) = n$ (p.118, p.128)
 A の行分割 でも同様

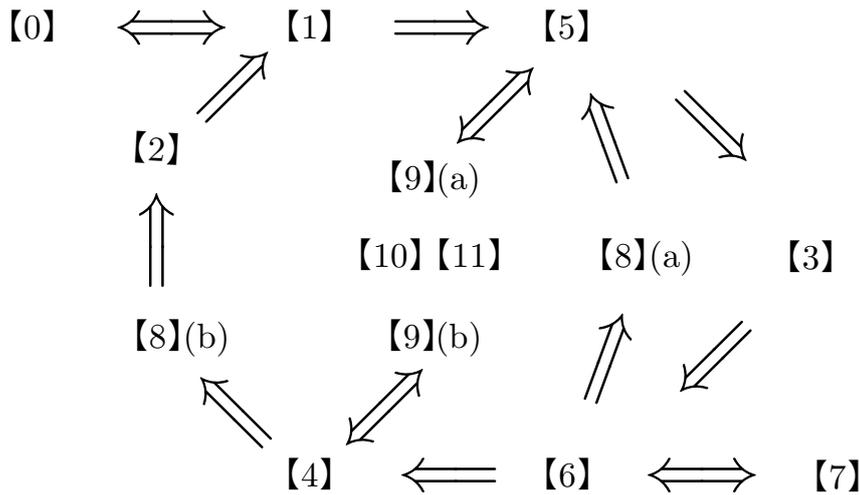
【10】 線形空間 V の中で $\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n$ が 1 次独立とする.

$$(\mathbf{c}_1, \mathbf{c}_2, \dots, \mathbf{c}_n) = (\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n)A$$

で与えられるベクトル $\mathbf{c}_1, \mathbf{c}_2, \dots, \mathbf{c}_n$ が 1 次独立である (p.115)

【11】 A が定める \mathbb{R}^n の線形変換 $f_A: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^n$ ($f_A(\mathbf{x}) = A\mathbf{x}$) が
(a) 単射 (b) 全射 (c) 同型 (d) 可逆 (p.160, p.161)

証明方針



【4】 \Rightarrow 【8】(b) の証明： 各 i ($i = 1, 2, \dots, n$) に対して $A\mathbf{x} = \mathbf{e}_i$ の解を $\mathbf{x} = \mathbf{b}_i$ とおく ($A\mathbf{b}_i = \mathbf{e}_i$) . このとき, 行列 $B = [\mathbf{b}_1 \ \mathbf{b}_2 \ \dots \ \mathbf{b}_n]$ (列分割) は $AB = E$ をみたす:

$$AB = A[\mathbf{b}_1 \ \mathbf{b}_2 \ \dots \ \mathbf{b}_n] = [A\mathbf{b}_1 \ A\mathbf{b}_2 \ \dots \ A\mathbf{b}_n] = [\mathbf{e}_1 \ \mathbf{e}_2 \ \dots \ \mathbf{e}_n] = E \quad \square$$

用語 $A = [\mathbf{a}_1 \ \mathbf{a}_2 \ \dots \ \mathbf{a}_n]$ (列分割) , $\mathbf{x} = \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix}$ とおく.

- (p.53) 「 n 個のベクトル $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ が **一次独立**」とは

「『 $x_1\mathbf{a}_1 + x_2\mathbf{a}_2 + \dots + x_n\mathbf{a}_n = \mathbf{0}$ ならば $x_1 = x_2 = \dots = x_n = 0$ 』が成り立つ」
こと.

- 「 n 個のベクトル $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ が \mathbb{R}^n を **生成する**」とは

「 \mathbb{R}^n の任意のベクトル \mathbf{v} が $\mathbf{v} = c_1\mathbf{a}_1 + c_2\mathbf{a}_2 + \dots + c_n\mathbf{a}_n$ の形で表せる」
こと.